

♪保健師からの子育てワンポイントアドバイス♪

ほめ方、叱り方

《ほめ方》

こどもが望んでいることは、「見てもらうこと」です。

よい結果や大きな変化がみられた時だけほめるのではなく、日頃のことも、あたりまえと思わず、「みているよ」「できたね」「終わったのね」とやっている時に声をかけましょう。

こどもと一緒に喜びを分かち合い、「うれしいよ」「ありがとう」と親の気持ちを伝えることは、認められたという体験になり次の行動への意欲につながります。



《叱り方》

こどもが悪さをした時、親は冷静ではいられなくなりますね。腹が立つあまり、どう対応したらいいかわからなくなることもあるでしょう。

叱り方にもポイントがあります。

- ① こどものしたこと、「行動」を叱る
- ② その場で短い言葉で叱る
- ③ ほかの子と比較して叱らない
- ④ 次はどうしたらよいのかを伝え、少しでも変化したら、すぐほめる



こどもが悪さをする原因は、様々です。 例えば…

- ・それがいけないことだとわかる年齢になっていない
- ・眠い、さびしい、退屈、興奮、具合が悪い、欲求不満
- ・どこまでなら許されるのか試そうとしている
- ・こどもらしくしているだけ 等々

ですから、こどもが困った行動をした時は、問題を解決するつもりで、①どうしたのか（事実） ②なぜそうするのか（原因）

③どうしたらよいのか（対策）と順序よく考えてみましょう。

それでもうまくいかない時は、ひとりで抱え込まず

誰かに相談してください。



体罰・暴言はこどもの脳に悪影

一見、体罰や暴言には効果があるように見えますが、恐怖によりこどもをコントロールしているだけで、なぜ叱られたのかこどもが理解できていないこともあります。体罰や暴言はこどもの脳へ悪影響となり、問題行動が悪化する可能性が高まります。

こどもの気持ちに寄り添いながら、社会で自律して生活を送れるように、必要なことを教え伝えていきましょう。

問合せ・発行

富士市

地域保健課

Tel 6 4 - 8 9 9 3 ~ 4

こども家庭課

Tel 5 5 - 2 8 9 6

（子育て総合相談センター）